

## イワンのばかを読んで

梅林中 一年 M I

私は、イワンの姿に心を動かされた。そして、この本が私に、大切なことを教えてくれた。

この物語のイワンの姿には、人は何のために生きていくのか、を考えさせられた。今まで私は、悪魔の考え方と同じだった。金や権力が大切だと思っていた。だが、この話を読んでいくうちに、金や権力のために生きるということが、ばかばかしく思えてきた。そして人は、金や権力のために生きていくのではなく、もっと大切なことのために生きていくことを学ぶことができた。私は、その大切なこと、というのが、この物語の中に入っている気がした。

イワンは、人から馬鹿だと言われている。私は今まで「馬鹿」という言葉はあまり好きではなかった。だが、この本を読んで私は思った。馬鹿という言葉は、イワンのように、正直で優しさのある人、働くことに一生懸命な人のことではないだろうか、と。私は「馬鹿」という言葉が私の中で良い意味にもなっている気がした。そして、「馬鹿」というのは、決して有利か不利かで判断しない。何が大切かで物事を考えられる立派な人のことだと私は思う。

作者トルストイは、この本の中で、労働、勤勉の大切さを世の中に伝えている。作者はきっと、人は何のために生きていくのか、ということの人々に考えてもらいたかったのではないだろうか。

実際に私も、この本と出会うまでは、お金や権力を大切なものだと思っていた。けれどこの本に出会って、「私にとつて何が大切なんだろう。何のために生きていくんだろう」と考えることができた。そして、主人公のイワンがだんだん作者トルストイのように思えてきた。作者は何が大切かで判断し、物事を考えられる立派な人が増えていつてほしいと思ひ、イワンのばかという作品を書いたのだと思う。

今までの自分を振り返ると、一生懸命働くことの大切さには気づかず、金や権力が大切だと思ひ込んでいた。そう、何が大切なのかを忘れていたのだ。けれど、何のために生きるのかを考えることもできた。私は、一生懸命働くなんて、面倒くさいし、疲れるし、必要ない、と今まで思っていた。だが、イワンの一生懸命働く姿を見て、汗水垂らして働くって大切だな、と初めて気づかされた。イワンはやがて王になり、イワンの国もできるが、イワンは王になつても、一生懸命働いてきた。すごいと思った。私にはまねしようと思つてもできないことだからだ。けれど、だからこそ、そんなイワンの姿から、私は労働や勤勉の大切さを学ばなければいけないと、改めて思つた。

そして、イワンの国には一つの習慣もできた。「手にたこのあるものは食卓に着く。だが、手にたかないものは、残り物を食え」というものだった。たった一つの習慣だが、私たちに大切なことを教えている。私たちの国にはないが、この習慣は素晴らしいものだと思う。日本も、イワンの

国から学ぶべきものがたくさんある。そして私も、イワンの姿から学ぶことがあると思う。

私は、イワンの姿から大切なことを教わつた。この本を読む前は、金や権力が大切と思つていた。だが、どんどん読んでいくうちに、そうではなかったと気づくことができた。そして、今までの自分がばかばかしくも思えた。そして今は、労働や勤勉の大切さを知つた。

私は、イワンのような人になりたい。イワンは、自分が王になつても働いていた。そう、自分の立場が変わつても、働き続けていたのだ。もしも自分だつたらと考へても、働かないと思ひ。きつとイワンにとつて、働くことが生きるということなのかもしれない。だからイワンは働いたのではないか。私はこれから、何事にも一生懸命働けるようにすると決めた。私が心から尊敬するイワンのような人になるために。

私はこの「イワンのばか」という本に出会えたから、何のために生きるのかを考えることができた。もしも、この本を読んでいなければ、大切なことに気づくこともできなかっただろう。そして作者トルストイは、私にいろいろなことを考えさせてくれた。

私はイワンのような、一生懸命働く人に、優しくて素直な人になりたい。私はまだ、有利・不利で判断してしまうときがある。でも、私はイワンのような、馬鹿でも、立派な人間でありたいと思ひう。